

Title	乳業メーカーにおけるチャネル形態の今後の方向性に関する一考察
Sub Title	
Author	飯島信夫(Iijima, Nobuo) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0064

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 飯島信夫 主査 片岡一郎 教授
(森永乳業株式会社) 副査 嶋口充輝 助教授
和 田 充 夫 助教授
所属ゼミナール 片岡一郎 研

「乳業メーカーにおけるチャネル形態の今後の 方向性に関する一考察」

乳製品のチャネルシステムにおいて、メーカーが、加工食品卸売業者に対し、充分コントロールし得ないという問題は、現象的には、商品自体の売上鈍化や、新規参入の活発化による競争激化、さらに量販店の成長による対抗力の行使（特に価格交渉力面）等によって浮きぼりにされた。

しかしながら、根幹には、メーカーの、パワー基盤を有しないが為のリーダーシップの欠如、及び、個別的な存在であるメーカーと、社会的存在である卸売業者との異質性から生ずる目的共有化の困難性という、現行の形態自体がシステムとして機能していない点が指摘されねばならない。

この問題点は、さらに小売構造上の変化 — 大規模小売業者相互の集中化と、零細小売業者相互の組織化による2極分化傾向 — を予想するに際し、卸売機能自体の変化 — 小売業者の卸売・生産機能の統合化の動きに対し、卸売業者自身も生産・小売機能分野へ進出したり、専門的に特定機能へ特化する。 — に伴って増幅されると予想できる。

ここにおいてチャネル形態自体の変更の根拠が提示される。あくまで、需要、製品特性への対応を前提としつつ、大規模小売業者に対しては、直接取引形態の志向（卸売機能を、小売業者及びメーカーが代替し得る段階へ移行した場合に限定されるが）が妥当性を有するものとなる。

又中小小売業者に対しては、卸売業者の選別化を一層明確化することによって現行の問題を解決する方向にむかうべきである。なぜなら、需要の広域分布に対応する上においては、卸売業者の有する分散機能は不可欠なものであり、基本的には現行形態を踏襲せねばならぬ故である。

かくして、環境への適応という点を念頭におきつつ、時代の要請に応じてチャネルシステムの形態は変化させていくことが必要となる。